

令和5年度 災害・健康危機対策委員会 活動報告

<p>■委員名</p>	<p>委員長：神崎初美 副委員長：雑賀逸平 委員：山本美鈴・我有かずよ・橋本しのぶ・緒方由美・草野一恵・亀井美紀 中原雅子・小田垣かおる・藤本剛司・並河直子・西口久代・永井桂子</p>
<p>■開催回数</p>	<p>6回</p>
<p>■活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域における連携支援体制の構築及び、災害発生に備えた体制強化、知識・技術の普及啓発 2. 健康危機関連規程集の見直しと充実化を図る。 3. 災害支援ナースの登録推進・養成研修 4. 地域の防災訓練への参加。地域住民への減災教育、防災力強化の取り組み 5. 新興感染症への看護支援体制の強化
<p>■活動内容</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和4年度災害時の受援体制に関する各医療機関、施設のアンケート結果分析については「準備状況、整備体制が確立できている」のは20%に満たない状況である。また「平時からの連携への普及」についても30%程の実施となっている現状を踏まえ、受援体制についての整備を災害研修ごとに啓発を開始し始めている。 2. 健康危機規程集の見直しと充実について 規定の新型インフルエンザ等新興感染症の業務継続計画として、今年度は新型コロナウイルス感染症5類移行したが、移行後も感染力が継続しており重症化予防の観点から感染状況の情報共有と、新興感染症の規定に基づいた感染対応を継続している。 3. 災害支援ナース養成研修の企画・運営 <ul style="list-style-type: none"> ・9月13日災害支援ナース交流会 ・【新たな災害支援ナースの養成研修】 災害支援ナース養成研修オンデマンド研修20時間 本会で実施：10月12・13日 災害支援ナース養成研修 集合研修災害編5.5時間 本会で実施：11月9・30日 災害支援ナース養成研修 集合研修感染編4.5時間 ・新たな災害支援ナースの研修は、計画通りに進め、結果としては定員120名を超える285名の応募があったが応募者全員受講できるよう調整し270名が受講した。 ・災害支援ナースマニュアルについては厚生労働省と日本看護協会で作成予定であり、本会は、派遣時の災害支援ナース支援の役割機能を確認し調整する予定である。 ・災害支援ナースの活動を強化するために、JMAT研修、防災訓練の参加調整とブラッシュアップとなるよう訓練を実施した。 4. 看護協会ホームページ等への災害看護や防災についての情報提供 実際の災害訓練について看護協会のホームページを活用し掲載した。災害についての本会の情報を研修等で周知した。 5. 地区の防災訓練、災害対策会議等への参加 災害健康危機対策委員会として、地区で開催される防災訓練、災害対策会議等に参加し、地域の状況に応じた連携支援体制について対応している。

	<p>6. 新興感染症に関する研修会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月24日新型インフルエンザ等感染症研修 ・新型コロナの感染状況の経過、5類後の現状、感染対策を周知した。
<p>■活動の評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・BCPの作成、受援マニュアルの普及に対し、研修啓発を行っているが、様々な組織があり浸透が進まない現状があるため効果的な実施を検討中である。 ・新たな災害支援ナース登録は事前の周知等によって予定数より大幅な受講希望者となり、270名すべての受講希望者の研修を実施できた。交流会では次年度の災害支援ナースの登録の推奨を実施し、参加者からは受講への意欲的な意見が聞かれ開催効果があり研修継続の必要性を認識した。防災訓練も実際的な訓練につながったとの意見が聞かれ、今後も具体的な活動につながるよう計画していく。 ・新興感染症を含む感染症の動向を把握し感染対策の周知を図る研修を実施してきた。アンケート結果からも継続の必要性を認識した。
<p>■今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・BCP、受援マニュアルの各医療機関の整備体制の確立に向けて普及が課題であり、今後も方法、対策を検討していく。 ・新たな災害支援ナース研修について、日看協からの指導者研修を実施し、県協会でも実施が課せられている研修も今年度からもいち早く実施した。今後の方向性をよく把握し引き続き講習方法の在り方を検討していく。 ・兵庫県内看護職による平時からの災害時と災害後のネットワーク構築について受援マニュアル等を用いながら今後も進めていく必要がある。